

■「グリーンウォーカー」インターン生が取材しました ⇒ <http://www.miyagigpn.net>

平成 29 年 6 月 29 日(木) 第 26 回グリーンウォーカーは「ニーズを捉えろ！アイリスオーヤマのモノづくり」をテーマに、アイリスオーヤマ株式会社総務部部長の本間勝様を訪ねて角田市にある角田 I. T. P/角田工場に伺いました。時代の移り変わりによる人々のライフスタイルの変化や行動変容、震災や災害からの教訓、また、社会全体の環境問題に対する意識向上などを考えたモノづくりコンセプトには、ニーズを確実に捉え、現状に足踏みすることなく、常に新規事業に挑戦して事業を拡大していくアイリスオーヤマの思想を感じることができました。詳しくは、是非、HP をご覧下さい。

今回はみやぎ GPN 事務局の他に東北大学環境科学研究科の高橋弘教授も同行されました。高橋先生が講師を務める仙台市主催「親子向け環境講座」の内容や開催趣旨に賛同を頂き、講座で使用するアイリスオーヤマ製園芸用の鉢の寄贈を受けました。



■SDGs シンポジウム「持続可能な社会にむけた 地域からのアクションー国連アジェンダ SDGs (持続可能な開発目標) をどう使う!ー」

日時：9月3日(日) 13:00~17:00 開催場所：古典芸能伝承の館(碧水園) 能楽堂

主催：NPO 法人環境会議所東北、みやぎグリーン購入ネットワーク事務局

共催：産業環境管理協会 東北地方 ESD 活用支援センター

協賛：損保ジャパン日本興亜環境財団 / 協力：白石ユネスコ / 参加人数：60 名

2015 年、持続可能な社会の形成に向けた世界共通の目標として SDGs (持続可能な 17 の開発目標) が掲げられました。このシンポジウムでは、実際に持続可能な社会、循環型社会形成につながる活動を展開する企業や NPO 法人に自社の活動についてご講演頂きました。また、シンポジウムの後半にはファシリテーターを迎えて各講演者を交え「住み続けられるまちづくり」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。

○基調講演「世界が一致した共通目標 SDGs~企業と地域はいま何をすべきか?」

佐藤博之氏 (アマタ株式会社 代表取締役)

○活動紹介①「持続可能(サステナブル)な環境と経営活動~坂元植林の家づくり、200 年の森づくり~」大沼毅彦氏 (株式会社サカモト坂元植林の家 代表取締役)

○活動紹介②「Made in 白石市 石から始まるグローバルな素材革命」

笹木隆之氏 (株式会社 TBM 執行役員)

○活動紹介③「SDGsNo.15~Life on Land~から見えてくる誰も置き去りにしない社会」海藤節生氏 (NPO 法人水守の郷・セヶ宿 理事長)

○パネルディスカッション

ファシリテーター：壁谷武久氏 (一般社団法人産業環境管理協会 地域・産業支援センター 所長)

○パネルディスカッション

ファシリテーター：壁谷武久氏 (一般社団法人産業環境管理協会 地域・産業支援センター 所長)

パネリスト：佐藤博之氏、大沼毅彦氏、笹木隆之氏、海藤節生氏。

パネリストの方々、実際に地域に根差した事業展開や活動を行っているので、活

発な議論が行われました。人と人、人と自然の距離が近く、そして地域の課題を地域

全体で解決する町、都市を踏襲せず地域の特色を活かし、地域のニーズに則した町が

「住み続けられるまち」であるという意見には、会場からも拍手が起こる場面もあり、

聴講者の皆さまが共感できる内容でした。



会員数： 125(企業 91 団体 15 行政 19) … A 会員 (全国会員) 93、B 会員 (みやぎ GPN) 32

■発行・編集 みやぎグリーン購入ネットワーク事務局

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目 10-6

TEL : 022-218-5451 FAX : 022-375-7797

E-mail m-green@miyagigpn.net

URL <http://www.miyagigpn.net>



みやぎ GPN ニュース vol.13



■ 寄稿「グリーン購入とSDGs」

代表幹事 猪股 宏 (東北大学大学院工学研究科・教授)



平成 30 年を迎えました。30 年前に始まった平成という年号ですが、当初は「昭和」が色濃く「平成」に馴染むのはいつ頃かと思案しておりましたが、最近では大学生。大学院生もほぼ平成世代になり、平成が当たり前になってきていることを実感しております。それが、来年は「新しい年号」になるということですが、その年号が馴染んで「**世代、**時代」となるのはいつになるだろうと思ったりもしています。なぜ、このような年号の話をしたかということ、言葉の馴染みと浸透・普及をちょっと考えてみ

たからです。

用語や言葉は、使い始めのころは、その定義も曖昧であったりするため、必ず説明が付けられるはずですが、徐々に社会に浸透するようになれ定義や説明なしでも使われるようになり、最後は略号などの表記が多用される場合もあります。家庭用パーソナルコンピュータから、パソコン、PC という変遷(?) は典型例だと思います。昨年末に「広辞苑」の改訂があり、新しく掲載された用語などが話題になりましたが、取り上げられたものは間違いなく浸透・普及したものです。換言すれば、広辞苑の改訂で取り上げられれば、社会浸透されたと言えるでしょう。

さて、このような思いから「グリーン購入」を考えてみました。グリーン=環境・地球に優しい、は想像されます。購入はものを買う行動です。環境に優しい商品を購入しましょう・・・というイメージは直観でわかりますが、購入という文字が、非常に強く、本来の「製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること」という趣旨が薄れてしまっていると感じています。ですので、是非ともグリーン購入の意味が社会に浸透し、GPN=グリーン購入ネットワークが説明不要になるように普及啓発ならびに好適事例を拡大させる必要性を痛感する次第です。では如何にすればよいか、非常に難しいですが、特効薬はないでしょう。漢方薬のように、弱い効能ながら永年継続して摂取することで体質改善が図られることを期待して、地道な活動を継続するのが、結果としては最短コースではないかと考えています。

同じように SDGs を考えました。これは最初から略号のようですが、「Sustainable Development Goals」の略号で、和訳は「持続可能な開発目標」となります。こちらは開発目標で、17 の具体的な目標 Goals が示されているので、その SDGs の意味がわからなくとも、国連の 2030 年アジェンダであること、そのための目標が個々に設定されていることは理解されるものと思います。しかも、個々の目標はわかりやすい言葉にて表現されているので、それに向けた取組などは検討しやすいと感じます。

このギャップを何とかしたいと考えたとき、SDGs を利用して、グリーン購入の意味・趣旨を普及させることができるのでは・・・、いや絶好タイミングであると感じております。GPN 本部においても事務局体制が変わり、社会の動向に対応した活動を強化すべく、SDGs と組み合わせた取り組みを計画しているようですので、みやぎ GPN でも地域の GPN ネットワークとしての活動をできる範囲で実施できればと考えます。

分散状態の私見を長々と述べましたが、会員団体の皆様におかれましては独自の思いで、普及底辺拡大を心がけて頂ければ幸甚でございます。

毎回、好評いただいている「事業所見学会」は今年度も開催予定です。日時・場所などの詳細は決定次第、ご案内申し上げます。今年も会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

■平成 29 年度グリーン購入事業所見学会

日時：平成 29 年 7 月 7 日（金） 主催：みやぎグリーン購入ネットワーク 共催：宮城県 参加人数：34 名
見学先：日本製紙株式会社石巻工場、松島自然の家、ディスカバリーセンター（併設：東北大学農学部生物海洋学研究室）

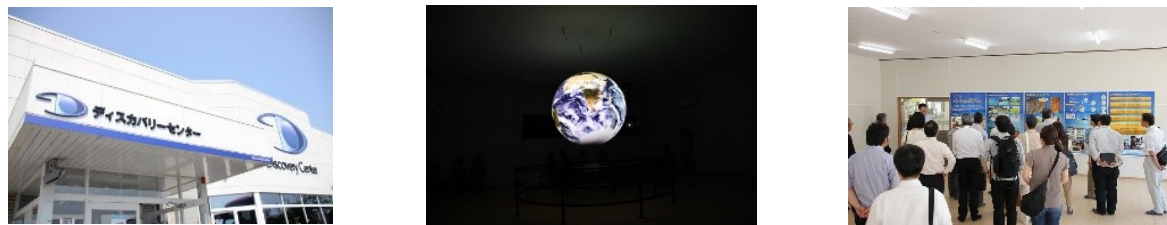
「日本製紙株式会社石巻工場」では、総務課の村上様から震災復興のお話と同工場の生産能力や特徴、古紙のリサイクル等についてご説明があり、実際に稼働中の工場内をご案内頂きました。工場敷地全体の一边は 1km、敷地内もバスでの移動でした。世界でもトップクラスの生産量を誇る工場内では、製紙装置やマシンの巨大さと最先端マシンの目にも止まらない速さに驚くばかりです。また、高品質の紙を安定生産するための体制と仕組みの上で、最後はやはり人の目による監視も大切な役割であることも伺いました。工場から出た後は、種類の違う木材チップがうず高く積み重ねられた資材置き場を見学しました。



昼食のため東松島市へ移動し、次の見学先の前に宮城県の「松島自然の家」へ立ち寄りしました。



最後の見学先は「ディスカバリーセンター」です。日本初となるアメリカ海洋大気庁（NOAA）が開発した科学地球儀 Science On a Sphere®（略して SOS）を設置している施設です。SOS では、気象や地震発生のメカニズム、世界のエネルギー移動の様子など 2~5 分程度の様々なプログラムを観ることが可能です。その後、併設されている東北大学農学部生物海洋学研究室で、東北大学の西谷先生に微細藻類に関する研究についてご説明頂きました。0.1mm にも満たない小さな生物の中には優れた機能を持つ種類も存在し、健康食品や保湿効果の高い美容品等の開発など高い経済価値が期待できるとのこと。この研究推進により、雇用創出等の地域の発展に繋がるといふことからの展望もお伺いしました。



■「りふ環境まるごとフェア 2017」「石巻環境フェア 2017」に出展

「りふ環境まるごとフェア 2017」

日時：平成 29 年 10 月 8 日（日）9：00～16：00
場所：グランディ・21 円形広場（利府町）
主催：りふ環境まるごとフェア 2017 実行委員会・利府町
内容：おもちゃドクター「おもちゃ病院エコ」の診察・修理。
当日は、10 家庭から 15 台の修理依頼（入院 1 台含む）がありました。



「石巻環境フェア 2017」

日時：平成 29 年 11 月 3 日（金）9：30～15：00
場所：遊楽館アリーナ（石巻市北村）
主催：石巻市
内容：GPN 関連の展示及びによる省エネミニ講座の開催
講師：千葉智恵さん省エネセンター東北支部
「グリーン購入と省エネルギーについて楽しく学ぼう！」
参加人数 13 名



■みやぎグリーン購入セミナー①と「環境出前講座」

○環境出前講座「『かばボン』と考えるものの一生涯のすくろく」
日時：平成 29 年 11 月 14 日（火）13：30～15：00

場所：増田小学校 体育館
主催：増田公民館、みやぎグリーン購入ネットワーク
参加者：増田小学校 5 年生 191 名
講師：三信加工株式会社 海老原誠治氏



○みやぎグリーン購入セミナー①「かくれた CO2 を考えるー今日から私たちにできることー」

日時：平成 29 年 11 月 6 日（月）10：00～12：00
場所：名取市民体育館 会議室 1
出席者：45 名
主催：増田公民館、宮城県、みやぎグリーン購入ネットワーク
講師：グリーン購入ネットワーク（GPN）事務局 高岡由紀子氏



■みやぎグリーン購入セミナー②「持続可能な地域づくりとグリーン購入」

日時：平成 30 年 2 月 15 日（木） 会場：富士ゼロックス宮城株式会社大会議室
第 1 部講演＞共催：宮城県、みやぎ GPN、第 2 部情報交換会＞主催：みやぎ GPN
参加人数：第 1 部 59 名 / 第 2 部 28 名

○第 1 部講演、はじめの講演では、アマタ株式会社 地域デザインチーム 仙台営業所の吉澤正太郎様から「持続可能な町へ～官民連携で目指す自立型の地域モデル」をテーマに震災後のボランティア活動をきっかけとして生まれた南三陸町での資源や人のつながりにおける持続可能な地域循環モデルの活動と現在、加美町で展開する新事業についてお話頂きました。この講演での話題は、以下のアマタ株式会社のサイトで、電子書籍「バケツ一杯からの革命」が無料ダウンロード可能です。<http://www.amita-hd.co.jp/books/>
続いての講演は、富士ゼロックス株式会社 総務部 環境経営グループ 環境経営推進チーム長の宮本育昌様から「富士ゼロックスの持続可能な用紙調達の取組み」をテーマに同社の環境経営、1992 年制定の「強い」「やさしい」「おもしろい」をバランスよく兼ね備えた会社を目指す「良い会社」構想のお話、中長期的な CSR 活動の方向性、SDGs 貢献のため、責任ある森林資源調達を支持するバンクーバー宣言への参加など幅広い話題でお話頂きました。富士ゼロックス様は、第 18 回グリーン市場拡大のためのグリーン購入大賞も受賞されています。<http://www.gpn.jp/results/result.html>



○第 2 部情報交換会 講演会の際から会場内には、以下のみやぎ GPN 会員企業様から自社の取扱い製品やサービスを紹介する展示を行って頂きましたが、あらためて、各企業様から個別プレゼンを行って頂きました。

- ①株式会社エコライフサポート「桜総業製 メイドインジャパンの LED 照明」～最適照度活用で大幅コストダウンに貢献～、「環境配慮型多目的洗剤 エコ・クウィーン」～安全・安価・便利な多機能洗剤～、
- ②富士ゼロックス宮城株式会社「環境を考えた働き方改革は DocuWorks から！」～紙を電子に変えるドキュメントハンドリングソフトの新商品 DocuWorks 9～、
- ③東京サラヤ株式会社 東北支店「持続可能な原材料調達により SDGs の取り組みから世界の衛生・環境・健康に貢献する」、
- ④有限会社千田清掃「世のため 人のため 地球のため 千田清掃は実践します！」、
- ⑤株式会社キクテック「石鹸を使わない時代到来、泡できれいに！！」、
- ⑥株式会社渡辺サービスセンター「獣害対策の専門員が皆さまをサポートいたします。正しい知識で正しい対策を！」

